

176年

熹平五年（漢）

皇帝

劉宏（漢靈帝）

皇后

宋氏（諱某）

皇太子

（空位）

三公

太尉：陳耽（前太常・174~176） 許訓（前司空・176） 劉寬（前光祿勳・176~177）

司徒：袁隗(?~176) 楊賜（前光祿大夫・176~177）

司空：許訓（前永樂少府・174~176） 劉逸（前太常・176~177）

その他の要職

太常： 劉逸

光祿勳： 劉寬

衛尉：

太僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

大將軍：

驃騎將軍：

車騎將軍：

衛將軍：

主な事件

- ▶ 夏四月癸亥 天下に大赦を下す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 益州郡の蛮夷が叛き、益州太守李ギョウが之を討ち平定《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ また崇高山の名を嵩高山と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 大いに雨乞いす。侍御史を獄亭部に行かせて、痛めつけるのを止めるよう処理し、刑が軽い者を許し、囚人を休ませた。《後漢書孝靈帝紀》

五月 太尉の陳耽が罷め、司空の許訓を太尉と為す《後漢書孝靈帝紀》

- ▶ 閏月 永昌太守曹鸞が党人を坐訟し、棄市された。党人の門生・故吏・父兄・子弟に当たる者は皆官を免じられ禁錮す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 六月壬戌 太常で南陽の劉逸を司空と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 秋七月 太尉の許訓が罷め、光祿勳の劉寛を太尉と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 冬十月壬午 御殿の後ろの槐（えんじゅ）が自ずから抜け倒れた《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 司徒の袁隗が罷めた《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 十一月丙戌 光祿大夫楊賜を司徒と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 十二月 甘陵王劉定が亡くなる《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 太学の生年六十以上の者百余人を試み、郎中・太子舎人を除く王家の郎、郡国の文学吏（漢官儀によればいずれも秩二百石で定員無し）とした。《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ この年鮮卑が幽州を侵した。沛国で黄龍が[言焦]で見られたと言われた《後漢書孝靈帝紀》

[PAGE TOP](#)

[175年 <<](#) [>> 177年](#)